令和３年度　　学　校　評　価【計　画　書・報　告　書】　　加賀市立分校小学校　校長　谷鋪　秀治　　印

学校教育ビジョン

教育目標　「知・徳・体の調和のとれた心豊かで逞しい児童の育成」

・一人一人が尊重され、「個」が輝く学校 （学校の存在意義）
・学び合い、個々の資質・能力を伸ばす学校（学校で学ぶ目的・意義）
・児童、保護者、地域の方々から愛され、信頼される学校（学校のあるべき姿）

“自分に挑戦”プロジェクト

授業力・学力向上プロジェクト（教務部，研究部）

心づくりプロジェクト（生徒指導部）

体づくりプロジェクト（保健体育環境部）

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取り組み状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	判定結果（最終）	今後の改善策
①教育課程 学習指導	児童が「わかった」「できた」と実感できる授業の創造	学習指導要領を基に単元構想シートを作成し、ねらい達成にこだわった授業を展開する。学習評価表を活用し、児童の学習状況を見取り、授業改善につなげる。さらに、毎週（1，2，3年・4，5，6年隔週）「授業力向上研修会」を行い、単元構想シートや学習評価表等から一人一人の児童に力が付いたのか検証することで確実な授業改善につなげ、児童の確実な力の定着に取り組む。	教務主任 学力向上担当	指導と評価の一体化に向けた単元を通した授業づくりの取り組みが統一されていなかった。また、教師と児童間におけるねらいの共有も不十分であった。今年度は具体的な取り組みを通して、教師と児童が授業のねらいを共有し、わかったできたと実感できる授業を行い、児童の確実な力の育成に取り組んでいく。	[努力目標] 単元構想シートと学習評価評価を活用し、授業改善を行うことができた。	単元構想シートと学習評価評価を活用し、授業改善を行うことができた教員の割合が A：90%以上　B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満　D：70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施			
	確実な学力向上	目標達成にこだわった授業を行い単元末テスト平均90点以上学校全体90%以上を目指す。また、単元末適応題として、学力調査問題に取り組み、授業改善を積み重ね、学力テスト：県平均＋2ポイントを目標に取り組む。今年度は一人一人の児童に力がついたか具体的に検証し、授業改善につなげ、確実な学力向上につなげる。		昨年度は児童の学習状況について具体的数値目標を設定しておらず、検証方法があいまいであった。今年度は児童の学習状況を具体的数値で検証し、授業改善につなげ、確実な学力の向上につなげていく。	[成果指標] 単元末テストクラス平均：90点以上の割合 [努力指標] 単元末適応題として学力調査問題を活用し、授業改善につなげることができた。	単元末テストクラス平均：90点以上の割合 A：90%以上　B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満　D：70%未満 単元末適応題として学力調査問題を活用し、授業改善につなげることができた。 A：90%以上　B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満　D：70%未満	学期末ごとにクラス平均点とその割合を検証			
	家庭学習の充実と定着を図る。	「分校小家庭学習のすすめ」「おすすめ自学メニュー」を作成し、学校と家庭で連携を図ることで家庭学習の充実と定着を図る。		家庭学習の習慣が身についてきた児童が少しずつ増えてきた。さらに、「分校小家庭学習のすすめ」や「おすすめ自学メニュー」を家庭と連携し共通理解を図り、充実を図る必要がある。	[成果指標] 学年相応（学年×10分以上）の家庭学習の習慣が身についているか。	学年相応の家庭学習が身についている児童の割合が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	各学期ごとに児童と教職員にアンケートを実施			
	ICTを活用して、思考を広げ、対話的な学びのある授業を実践する	ICTサポーターに、端末操作についての相談の場を設ける。総合的な学習の時間を中心に、児童の考えの共有場面での活用の実践をはかり、他教科でも実践を広げていく。毎月、校内研修を定期的に行い、授業実践の交流を図る	情報担当	ICTを使った授業の実践はしているものの、例としては少なく、思考を広げ対話的な学びのある授業を行っているという点についてまだ不十分である	[成果指標] ICTを使って、思考を広げ、対話的な学びのある授業を実践することができたか。 [満足度指標] ICTを使った授業で、考えを深められたか。	目標達成に向けた授業を行うことができた教職員の割合が、 A：90%以上　B：80%以上90%未満 C：70%以上80%未満　D：70%未満 考えを深められたという児童の割合が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に教職員と児童にアンケートを実施。			
	思考の深まりが見られる道徳授業の推進	道徳の授業において、児童を引き込む中心発問と児童の考えが可視化された思考が深まる板書を意識し、思考の深まりのある授業を行う。	道徳教育推進教師	児童が考えたくなる中心発問や児童の考えが可視化された思考の深まる板書を工夫し,主体的で対話的な深い学びのある授業を行う。	[努力指標] 児童を引き込む中心発問と児童の思考が深まる板書を意識し、主体的で対話的な深い学びのある授業ができたか。	児童を引き込む中心発問や児童の思考が深まる板書を意識し、主体的で対話的な深い学びのある授業に臨めたと答えた教職員が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施			
	読書活動の充実・質的向上	学年ごとに目標冊数を決め、進んで本を選んで読んだり、調べたりする読書活動を広げる工夫をする。	図書担当	朝の時間に貸し出しをすることで、図書室に来る児童が増えてきている。読書に親しむ児童が増えてきたが、個人差がある。計画的に読書を奨励すると共に、学校司書と連携し読書の質を高めたい。	[成果指標] 学期ごとに目標冊数を設定し，目標冊数の達成ができたかどうか。	学期の目標冊数を達成した児童の数が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施			
②生徒指導	いじめのない楽しい学校づくり	毎月の児童理解の会での情報共有及び教職員によるいじめチェック表の実施、年4回のいじめアンケートの活用などを通して、いじめの未然防止と早期発見・対応に努める。	生徒指導主事	いじめは小さな芽で摘むという認識の下、いじめを認知した時は組織的に対応を行い、指導後も複数の教職員で見取りを行ってきた。どの学級にもいじめは発生するという認識で学級経営をしている。	[努力指標] 年4回のアンケートを活用するなどして、いじめの未然防止、早期発見・対応、事後の見取りに努めることができた。	いじめの未然防止、早期発見・対応、事後の見取りに努めることができた教職員の割合が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施			
	自分から進んで元気に挨拶をする児童の育成	児童運営委員会を中心として、挨拶を奨励する活動を行う。		昨年度は新型コロナ対応の中、できる範囲での挨拶運動を行ってきた。しかし、自分から進んで、気持ちのよいあいさつができる児童はまだ少なく感じる。	[成果指標] 自分から進んで挨拶ができたか。	自分から進んで挨拶ができていると答えた児童が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に児童にアンケート実施			
③キャリア教育 進路指導	キャリア教育の推進	様々な学校行事を通して、社会貢献をする力を高め、自分の成長を実感できるようにする。	キャリア教育担当	学校行事に進んで取り組むことができる児童が多い。キャリアパスポートを活用し、さらに、その中で身についたことを様々な授業や生活に生かせるようにしていく。	[成果指標] 様々な学校行事に主体的に取り組み、自分の成長を実感できたか。	様々な学校行事に進んで取り組み、自分が成長できたと答えた児童が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に児童と教職員にアンケート実施			
④保健管理	規則正しい生活習慣の確立	規則正しく節度ある生活習慣の確立に向けて、児童健康委員会・母親委員会等と連携して啓発を行う。	保健主事 養護教諭	朝食の摂取率・栄養バランス、歯磨きについては改善されている。しかし、早寝早起き・メディアコントロールに関しては課題がみられる。特にメディア機器の使用時間・ルール設定・使用時の環境整備等について見直す必要がある。	[成果指標] 児童と保護者が「早寝・早起き・朝ご飯」を実践しているか。また適切なルールを設定し、メディアコントロールができているか。	実践していると答えた児童と保護者が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に児童と保護者にアンケート実施 学期毎の生活リズムチェックカード			
	運動能力の向上	長休みの体力づくりや体育の授業を通して、運動能力、特に柔軟性の向上を図る。	体育担当	継続的に体力作りや学年の取り組みは行われているが、柔軟性や投能力に課題がある。令和元年度のスポーツテストでは全学年が柔軟性の県平均を下回っていた。ICT機器の活用、スポチャレしいしかわへの積極的参加を通して、特に柔軟性の向上を目指す必要がある。	[成果指標] 体力づくりや体育の授業を通して柔軟性が向上し、県平均を上回ることができたか。	柔軟性が県平均を上回った児童が A：70%以上　B：60%以上 C：50%以上　D：50%未満	5月と11月に柔軟性の測定実施			
⑤安全管理	火災・不審者・地震津波を想定した避難訓練の実施	火災を想定したもの、不審者を想定したもの、地震・津波・を想定したものをそれぞれ１回ずつ実施し、関係機関と緊密に連携していく。	教　頭	消防署や警察署、こども園と連携をとり、児童の判断力や危機意識をさらに高める。引き渡しカードの見直しや引き渡し訓練の実施、危機管理マニュアルやアクションカードの見直しをしていく。	[成果指標] 児童自らが判断しなければならない避難訓練を実施し、成果を出すことができたか。	児童自らが判断しなければならない避難訓練を実施し、実践的な成果があったと答えた教職員が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施			
⑥特別支援教育	児童の特性に寄り添った支援の組織的支援体制の確立	支援を必要とする児童及びその保護者に対して、校内支援委員会で児童の特性に寄り添った支援の在り方を検討し、組織的に支援に取り組む。	特別支援教育コーディネーター	特別な支援の必要な児童及びその保護者に対して、校内支援委員会で児童の特性に寄り添った支援を検討し、専門機関とも連携して組織的に支援をしていく必要がある。	[努力指標] 支援を必要とする児童及びその保護者への支援について、児童の特性に寄り添い、組織的に支援することができたか。	支援の必要な児童及びその保護者に対し、組織的に支援できたと答えた教職員が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施			
⑦組織運営 業務改善	組織の活性化や効果的・効率的な業務改善を図る。	学校経営ビジョンの具現化に向けて、学校運営委員会やそれを支える分掌部会を充実させ，チーム学校で効果的・効率的に業務改善を進める。	教　頭	若手が多く経験は浅いが、職員は協力的であり、組織的・効率的に動く意識は高い。経験の少なさをチームで動くことによって一人が抱える負担を少なくしていく必要がある。ICT利用による業務改善、文書の電子化を進めている。	[努力指標] 学校経営ビジョンを実現すべく組織的に動き、業務改善に努めたか。	組織的に動き、業務改善に努めたとする教職員が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施			
⑧研修	校内研修に積極的に取り組み、国語科の授業改善に努める。	研究推進委員会を中心に、研究主題をもとに校内研修会や研究授業、授業交流を積極的に行い、授業改善に取り組む。	研究主任	国語を楽しいと感じている児童が多く、意欲的に国語科の授業に取り組めてはいるが、自分の考えを表現したり、条件に応じて書いたりすることに課題がある。昨年度までの実践を生かし、授業改善のための校内研修や研究授業を活用していく。	[努力目標] 積極的に校内研修、研究授業に取り組み、授業改善に努めることができたか。	積極的に校内研修、研究授業に取り組み、授業改善に努めることができた教職員が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施			
	若手教職員の早期育成を図る。	若プロを計画的に実施し、「チーム分校」で若手教職員を育てる。	若プロコーディネーター	学級担任すべてが、若プロ対象者である。早期に若手教員の人材育成をしていくことが重要課題であり、計画的に進めていく必要がある。	[満足度指標] 若手早期育成プログラムを受け、「石川県教員育成指標」における身に付けるべき資質能力を身に付けることができたか。	若プロを受け、身に付けるべき資質能力を身に付けることができた教職員が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に教職員にアンケート実施			
⑨保護者 地域との連携	学校の情報を提供する開かれた学校をめざし、信頼される学校をつくる。	学校だより、学年便り等各種便り、ホームページ等で学校や児童の様子を知らせ、タイムリーで有効な情報提供を行う。	教　頭	学校だより、ほけん便り、図書便りは定期的に発行されている。学年便りは、担任によってばらつきがあるが、ホームページなどで学年の取り組みなどを紹介している。ホームページに様々な役立つ情報を載せ、関心をもってもらう必要がある。	[満足度指標] 学校だより、学年便り等各種便り、ホームページ等を活用し、保護者が知りたい情報を提供したか。	学校の様子がよく分かったと感じている保護者が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	7月と12月に保護者にアンケート実施			
⑩教育環境 整備	児童が安全で安心して学校生活を送れるよう校舎内外の環境整備に努める。	日常的に整理、片付けを意識し、校舎内の環境整備に努める。毎月の管理場所の安全点検を通して、不備な箇所の施設の修繕を行う。	教　頭	毎月の安全点検と早期の修繕を実施しているが、校舎の老朽化に伴い、恒常的に不良箇所が発生している。	「努力指標] 毎月、各管理責任者が安全点検を実施し、安全の確保と環境の整備に努めたか。	安全確保に努め、校内外の環境整備に取り組むことができた教員が A：90%以上　B：80%以上 C：70%以上　D：70%未満	毎月の安全点検と7、12月に教職員にアンケート実施			

学校関係者評価	